# 第２回 菊川市介護保険事業計画等推進委員会　　議事録

【日時】
平成 29 年８月 28 日（月）　13：30～15：00

【場所】
菊川市総合福祉センター　プラザけやき　２階 201 会議室

【次第】
1　開会
2　あいさつ
3　議事
　第７期介護保険事業計画・第８次高齢者保健福祉計画の計画案について
　(1) 現計画の検証等
　(2) 計画案について
4　閉会

【議事録】
(1) 現計画の検証等
（委　員）　資料１の３ページ「３ 介護予防の充実　① 介護予防把握事業」の評価を修正とのことで、確かに評価も低いが、今後どうするかが大事だと思う。まず、対象者をしっかり把握して、必要なことを実施することが大事で、対象者を十分把握できないと十分な活動ができないと思う。高齢社会がどんどん進展して、対象者がどんどん増える状況の中で、待っている姿勢ではダメで、具体的にアプローチしないといけないと思う。説明の中で対象者の把握に努めるとあるが、具体的には分からない。具体的にどのようなことをして把握に努めているかを知りたい。同報無線でも、高齢者で認知症なのか分からないが、行方不明者の放送がよく流れていて、昔より増えている。また、交通事故の被害者や深夜徘徊して車にはねられる事故も増えている。市や関係機関が力を合わせて、しっかり高齢者を見守っていくことが大事なので、把握をどう考えているのか教えてもらいたい。
（事務局）　介護予防把握事業で把握できていない部分を今後どうするかという質問だと思うが、私どもも検討しているところである。高齢者実態調査は、12,000人程度の高齢者、1,800人弱の認定者がいる中から抽出して1,500人に対して調査を行っている。今回も結果を見ていても、やはりデータが足りないと感じるところがある。介護予防把握事業では、今まではチェックリストを用いて郵送調査で個々の状態を調べていたが、国としても効果が薄いということでやめるようになった。ご意見いただいたよう

に、もっと実態が分かるようにならないといけないということで、ワーキンググループでも調査をどうするか検討している。方法をどうするかまでは、まだはっきり決まっていないが、例えば、実態調査の対象者をもっと増やすとか、市を生活圏域でエリア分けしているので、１年ずつ交代でもう少しサンプルを多く調査して、回答がない方も追いかけられるような形で調べられないかとか、色々と検討している。予防把握事業の中で実施できるものではないが、実態調査の方法を変えながら、状況を把握できるように変えていきたいと考えている。

（委　員）　考えていきたいと言うだけで具体的なことは出てこないが、自治会として見守っている立場としては、少し不安な点がある。また、ワーキンググループでしっかり詰めていただいて、しっかり対象者を把握する方法を考えていただきたいと思う。

（事務局）　ワーキンググループも推進委員会の合間で実施していくので、具体的にどうするかということも少し詰めて、また話をさせていただく。

（委　員）　例えば、高齢者の情報を把握している所と、この会議に出席している方でも、どこのお宅でどういう介護の必要な方がいるとか、個人情報に関わるからそういう把握はできないのか。やみくもに何歳以上だからということで訪問するより、はるかに効率が良いと思う。

（事務局）　介護が実際に必要な方を把握するという側面もあると思うが、予防把握事業で行いたいと考えているのは、その前段階にある方がどのくらいいるかとか、どういったものが望まれているかとかが把握できればと考えている。介護が必要になる方は、現実的に困っているので、地域包括支援センターに相談が入っている。それぞれのネットワークの中では情報は拾えていると考えている。

（委　員）　介護を必要とする家族の方が相談に行ける場所とか、不確定かもしれないが、やみくもに調査するよりは、そのあたりの機関で把握するなどすれば、もう少し効率的だと思う。介護を必要として現実的に困っているような人達は、例えばどこへ相談に行くのか。

（事務局）　そのような相談や不安を抱えている人には、地域包括支援センターやブランチで対応している。実態調査結果にもあったが、地域包括支援センターやブランチの周知度も前回に比べたら高くはなっているが、ＰＲしてもまだ届いていない部分もあるので、まずは周知が必要だと感じている。

（委　員）　普通に考えると、こういうところには相談しないと思う。病院とか専門機関とかに行くのではないかと思う。そちらもターゲットにして、色々やってみるのも良いのではないかと思う。

（事務局）　私達も、心配な方には訪問もしている。ストレートに行くと拒否される場合もあるので、回りこみながら話を進めている。病院の先生達とも連絡のやりとりはさせていただいている。

（委　員）　現状把握が一番大事だと思う。現状把握がどれだけできるかで、結果が

生まれてくると思う。我々、民生委員児童委員77名は訪問をしているが、その資料を市は使っていないように感じる。力を合わせて、毎年１回は訪問していて、その範囲が従来は65歳以上だったが、75歳以上に変えてしまった。人数が多くなるから変えたのだとは思うが、私どもは地域の委員として「気がかりのある家は年齢を問わず訪問しましょう、それが我々の活動だ。」と思っている。そういう訪問を委員には呼びかけている。また、安心・安全で危機管理でも使われているはずだが、十分には使ってもらえていない。使われ方が足りない。その情報を使っていただくことで、我々も、データに使われるからもっとしっかりやろうと進められる。この中でも、どう使えるかの検討に我々のデータを見ていただきたい。85名の委員リストがあり、そのリストに基づいて出されている。場合によっては、個別に委員に聞けば、個別情報も分かると思う。ネットワークがあるので、それをフル活用していただければ、有効に使えるのではないかと思う。

（事務局）　調査だけだと足りない部分があり、包括支援係でネットワークを作り、民生委員にもネットワークに入っていただいているが、それがうまく活用できていないという話かと思う。これからは、もっとうまく活用して、高齢者の状況を把握できるようにしていければと思う。昨年、ブランチで重点事業として、小笠地域に限ってだが、高齢者のひとり暮らし世帯と高齢者のみの世帯の1,144人の中から、民生委員に協力をいただき、福祉関係やブランチで関わりのない世帯を抽出した。結果として、1,144人のうち83人は確認が必要ではないかと分かったので、今年度はそちらにもブランチで訪問活動をしていく予定がある。チェックリストも合わせて実施しながら、待っているだけではなくて、こちらから積極的に実施していきたいと思っている。まだ、菊川地区は手がつけられていない状況ではあるが、ブランチの実施状況も把握しながら、民生委員に協力をいただいて進められればと思う。

(2) 計画案について

（委　員）　アンケート結果で前回の実態調査も載っていて、前回の会議で道路交通法改正の話も出たと思うが、３月に改正となっている。免許証を返納している人がどのくらいいて、どのくらい不自由を感じている人がいるのかが分かると良いのではないかと思う。これまでに免許証を返納した人が何人くらいいるかとか、そういう基本的なところは分かるか。

（事務局）　今、手元に数値はないが、市でも公共交通のアンケートなどで不自由を感じている人が多く、どうするのが良いのか、公共交通のあり方は考えるところである。また、地域の移動手段や生活の中で困っていることで前回も話があったが、移動販売車なども出ているので、市としても何か支援ができればと考えている。

（委　員）　管内は分かると思う。免許証を返納した人の支援というのは、この中で

はどれにあたるのか。

（事務局）　今までのサービスには、運転免許証の返納者に対してのサービスは特にない。今後も政策支援コーディネーターの事業とかの中で検討していく材料となっている。

（委　員）　生活支援に輸送サービス機能があるが、これは違うのか。

（事務局）　これは、介護度が高い方が自分の移送ができない時に使っていただくもの。生活支援体制の整備事業の中で協議される内容になる。

（委　員）　資料３の15ページで、「（8）どこで介護を受けたいか」について「自宅で介護してほしい」と回答した人の割合を合わせると62.3％、「（9）どのように介護したいか」について「自宅で介護したい」と回答した人を合せても64.2％と、自宅を中心に考えているのが高齢者の方々のほとんどだと思う。ところが、資料１「(4)家族介護支援」のところを見ると、いずれも縮小となっている。高齢者の意向と市の考えで、乖離が起きているのではないかと思う。菊川市を考えた時に、どちらかというと家庭で介護を受けたいと思う人が多いということは、同居世帯がかなりあるということが前提だと思う。所得支援でも、国の施策としては減らしていこうという方針はあるかもしれないが、菊川市ならではの施策として、重点的に厚くしてあげることで幸せ度アップにもつながるのではないかと思う。

（事務局）　以前の介護者手当に関しては、今後また考えていくというところで、現時点では国の施策を反映して、介護特別会計の中で縮小、あるいは今の方法ではないところで考えなければならないと思っている。ただ、その下の「③家族介護教室・家族介護者交流事業」の修正は、縮小という意味ではなく、介護教室の開催とか、認知症家族の方を守るために、別の認知症施策の中で認知症カフェ事業も始まっている。菊川市民のより多くの方に認知症への正しい理解をしていただき、周りでサポートする体制を作っていくようにシフトしている。地域の中で支える体制を作ることのほうが大切であるということで、個別の家庭に関しては今後の課題であると考えている。

（委　員）　介護予防の充実ということで、22ページの重点事業３で書いてある。対象者をしっかり把握して必要なケアを行っていくことはもちろん大事だが、その前に介護が必要にならないことが大事なので、予防活動にもっと力を入れていかなければならない。健康づくり課長もいるが、もっと予防活動に力を入れないといけないと思う。元気な高齢者なら医療費も福祉費も削減できる。介護の世話にもならない。色々な面で今の社会に合致していくようになると思う。以前、テレビでおじいさんが大車輪をしていた。あの方は絶対、介護の世話にはならないと思う。あるいは85歳でフルマラソンを走るおじいさんもいる。そういう元気なおじいさん、おばあさんを作るような施策に、もっと市や関係機関は力を入れてもらいたい。ここで疑問は、介護予防について22ページでは重点事業３

で、17ページでは基本目標１になっている。そう考えると重点目標１に入れて良いのではないかと思う。自治会活動の面で話すと、老人クラブ活動（資料１　「①老人クラブ活動の促進」）が80点と書いてあるが、老人クラブはどんどん減っている。私のところの単位自治会も数年前になくなった。だいたい、老人クラブの名称自体が良くない。それから、「②敬老事業」とあるが、評価100点と書いてある。しかし、敬老会に行く方はほんの一部で、市の敬老会参加者は40％程度だと思う。もっと社会へ参加する、外へ出ることが理想だと思う。一日中家の中にいて、テレビ付けっぱなしでボーッとしているようでは足腰も弱る。そういうことを考えると、予防活動にもっと力を入れるべきだと思う。

（事務局）　高齢者の介護が必要にならないために予防をどうしようかという話で、総合計画では生涯ずっと健康ということで、スポーツにも取り組んでいただいているし、健康づくりでも、若いうちから取り組んで介護予防につなげている。高齢者が出かける習慣を作るということでも、その前の世代からやっていくという、こういうつながりが出てくれば良いと思っている。老人クラブについても、個々では動いてくれているが、なかなかまとまるのが難しいというところがある。また、老人クラブは、シニアクラブという名称で何とか盛り返したいと取り組んでいるところで、市としても支援していきたい。

（委　員）　自治会の色々な定例会で話すが、老人クラブは減っているが、自治会ごとに高齢者ふれあいサロン等ができつつある。老人クラブには行かないが、ふれあいサロンになら行く高齢者もどんどん増えている。そういうのも、もっと行政や関係機関で支援してくれれば、予算の面も含めて何か支援体制を作ってもらえればと思う。

（事務局）　高齢者サロンは地区社協でも取り組んでいて、各地域で色々とできている。現在把握している箇所で42箇所、地域でサロン活動をしていただいている。個別に色々なグループもあるので、そういった事業については生活支援体制の中でも、社協と協力しながら行っているところで、サロン活動の中で介護予防教室等もしており、支援はしている。介護予防事業についても、把握事業がもう少し工夫されるべきではないかということで60と評価しているが、介護予防事業のサロン活動でも、より早く介護予防に取り組んでいただくように啓発活動とかは進んでいるところである。

（委　員）　計画は来年４月から施行ということで、今載っているのが重点事業でも良いが、やはり具体策が出ないとまずいと思う。具体的にどういうことをするという検討は、あるのか。

（事務局）　また細かい事業、個々の事業については、この後に載せていく形になる。

（委　員）　私は今回初めてで、健康づくりで入っているが、すべてはほとんど数値化できるはずだと思う。色々な方法で数値目標を作って、それに対してどうなのかということが一部は出ているが、本気でこれを前進させてい

こうという、その充実度でスピードが変わってくると思う。なるべく数値化して、数値化しにくいものもあると思うが、何かを具現化していく、推進していく、改善していくためには、やはりそれなりの方法があると思う。そこを少し検討しないと、今のままでは抽象的にこうしたいとみんなで言っているだけで、それをやった結果がこうでしたという繰り返しになると非常にもったいない。

（委　員）　４ページの高齢者の現状（資料３「１　高齢者の現状」）は年齢だけだが、介護認定率がなぜ出てこないのか。介護認定率がどういう状態にあるかというのは、年齢と同時に介護が必要な人がどういう状況で、それがこれからどうなるのか、それも現状ではないか。ぜひ入れ込んでもらいたい。

（事務局）　数値目標については、国からも数値目標を立てるように言われているので、今までの計画よりもさらに、各事業について、できるものは数値目標を立てる書き方に直していきたいと考えている。また、認定者数については人口推計の後に入れるつもりでいるが、今はまだ推計作業中なので、数値ができ次第、入れさせていただく。

（委　員）　グラフも、何度も同じ数値が出てくる。

（事務局）　人口推計を追加した後で、総人口の推移と同じ項目が載っているなと私も感じているところなので、１つにまとめる形で考えている。形は変わると思うが、こういった要素で載せたいということで理解いただければと思う。

（委員長）　委員の皆様には新しい事業計画策定について引き続き注視いただきたい。